

富岡製糸場観桜会

富岡製糸場では、昨年に引き続き観桜会を開催します。樹齢50年以上におよぶ桜の木が見事な花を咲かせ、赤レンガ倉庫と一体になった景観とイベントをお楽しみください。なお、市民無料開放ウィーク、桜のライトアップについては、桜の開花状況により変更になる場合がありますので、問い合わせください。



- 市民無料開放ウィーク
日時 4月1日(休)～11日(日) 午前9時～5時 (最終受付：午後4時30分)
- 桜のライトアップ
日時 4月3日(土)～11日(日) 午後6時～8時
会場 プリユナ館南側広場 ※南側職員駐車場よりご入場ください。
- 観桜会イベント
日時 4月3日(土)・4日(日) 午前10時～午後4時30分
会場 プリユナ館南側広場、東爾倉庫
内容 野点、俳句の投句、演劇、演奏・合唱会、ファッションショー、富岡シルク製品の販売、各種物販など
※イベント内容は、変更になる場合がありますので、ご了承ください。

主催 富岡製糸場世界遺産登録をめざす連絡協議会
共催 市、教育委員会

問い合わせ 世界遺産推進課 (☎64-0005)



「着物de花見」でファッションショー 参加者募集

観桜会イベント時に開催される「着物de花見」でファッションショーの参加者を募集します。昔の着物や街着をお持ちの方は、ぜひ、参加してください。
申し込み・問い合わせ 3月26日(金)までに、富岡製糸場を愛する会事務局 (☎62-3117) へ。
ファッションショー日時 4月3日(土) 午後1時30分から
主催 富岡製糸場を愛する会

近代産業の夜明け

富岡の明治維新

(87)

官営期の製糸所は、次の二つの観点から論じられることが多い。
その一つは、経営的には黒字が続いたのか。
二つめは、模範工場としての役目は果たせたのか。
そこで一つの問題から考えてみることにする。
従来、経営に関しては、毎年赤字続きで評価に値しないという説が有力であった。確かに、フランス人が滞在していた明治8年までは赤字続きであったが、日本人だけの経営に移ると各所長の経営手腕が問われ、特に速水堅曹が2回目の所長に返り咲いた明治18年度以降は、毎年すべて黒字化されている。
速水は、これを累年の興業費と営業費に分けて論じている。

当初建築を含めた一切の興業費は、金29万3,922円87銭余。
内、金18万2,317円53銭を、明治22年以前に国庫へ返納。
右は興業費償却不足分、明治23年以後の累年純益金8万1,846円73銭余を充当すれば、全額返納の上、金1万4,753円38銭余の利益となる。
営業費は、金20万3,706円76銭余。
購買入金金は元来20万円であったが、売上金不足のため、一時欠損した。しかし、明治23年度に回復し、利益は国庫に収めた。
以上、興業費・営業費共に償還した上に剰余金を出し、すべて国庫に収めることができた。速水は述べている。
このように、創業当初は赤字であったが、一番長期にわたって在任した速水所長の努力は、製糸所の経営を見事に黒字化したのである。したがって、当所は赤字続きであったという通説は消去できるのであるが、これには工女などの人件費は含まれていない。(今井 幹夫)

富岡製糸場の歴史を紹介しています。過去に掲載されたものを見たい場合は市長公室に問い合わせください。

お花見に行こう

もうすぐ桜の季節です。市の花「桜」は、春を象徴する日本人になじみ深い花です。市内には、桜の名所と呼ばれる場所がいくつかあります。ぽかぽかとした春の陽気に誘われて、お花見に出かけてみませんか。お花見の宴会の後は、ごみの持ち帰りもお忘れなく。



- 妙義神社 参道のシダレザクラは一見の価値あり。
- 妙義町菅原 松の木でシダレザクラは穴場。
- 丹生湖 釣りをしながら花見も楽しめる。
- 宮崎公園 ツツジの名所だが、桜もまた見事。
- 龍光寺(宮崎) カメラマンも多く訪れる隠れた人気スポット。
- 買前神社 参道の桜のアーチは有名。
- 一峰公園 提灯の明かりに照らされ、幻想的なムードに。

- 大堰湖 千本桜と呼ばれる景色をボートから眺める。
- 富岡製糸場 赤れんがと淡いピンクのコントラストが美しい。
- 親水公園と城山 600本余りの桜が山肌を覆う。
- 崇台山 昨年、1,000本の桜の木を植えました。

市民の文芸

漢詩

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

齋藤清次選

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

高橋洋一選

酌み交はす子の眉太し成人日
福寿草七度目の干支迎へけり
久びさの姉さん被り煤払ひ
製糸場の倉吹き抜ける空つ風
父母の歳に一つ近づく三日かな
臘梅の香の光る闇の中
眼裏の休耕田に若菜摘む
卒寿の母指差す先の福寿草
裏参道行き交ふ人や年新た
丁寧に筆をシャンブー筆始
初詣姉の合格祈願する

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

新年作
松竹呈祥曉色開
早梅放靄喚春來
歲朝把酒恍如夢
客到高吟又快哉

新年作
新正立志酒杯中
先慶雖貧氣象雄
春色蓬蓬初日上
春光盞盞海天紅

雪中即事
乾坤一白玉塵馳
茅屋窓前景始奇
袖手四望山路遠
凍禽無影雪晴遲

短歌 宮前しづ子選

金色の四方に輝く初日の出目つと八十路の手を合はせたり
おみくじの大吉当たり嬉しさを固く握りて初日受けたり
わが編みし襟巻き温しと思師より短歌添へある賀状いたたく
友よりの賀状あなたの詠む短歌に励まされたとメッセージあり
崇台山へ娘と連れだちて登り来て刻々射しくる初日を浴びる
コシネ汁立ちて頼張る産業祭三十年ぶりなる友に遭ひたり
着展れて広場に集ふ老いし人声かけ合ひてボール打ち合ふ
解体せし築百年の梁見れば柵の接合手際よきなり
障害の夫を支へて十二年今年も笑顔で支へてゆかむ
蚕飼ひやめ久しかれども繭玉を作りつづけて嫁も手伝ふ
膨らんだときもあつたなこの財布
萎びてもチクツと主張バラの刺
忙しさに忘れてしまふしなやかさ
切りやすく割って届いた栗南瓜
朝の冷え獣にも似てもぐり込む
霜除けの補修しながら春に夢
くすり指記念日毎に太つてく
それなりの頭床屋の腕自慢
深夜にもナースコールのベル止まず
ダイエットいつまで続く明日から

下丹生 松本 久枝
下高尾 金田てるじ
上丹生 高橋 恵子
七日市 新井 逸子
七日市 恩幣 森造
七日市 飯塚有紀子
下高尾 小林 勝明
田島 石田きぬ子
白岩 金井 幸子
富岡 黒沢 繁
富岡 金井 君代
一ノ宮 田島 悦子
野上 飯塚 邦武
富岡 田島八千代
一ノ宮 保坂 敏夫
一ノ宮 大野 里子
相野田 小柴真知子
宇田 一の宮徳
下高尾 中山 千鳥